

第2次読書のまち八王子 推進計画事業評価

平成27年12月
八王子市図書館部

目 次

○八王子図書館の沿革	1
I. 第2次読書のまち八王子推進計画の総合評価	2
1. 生涯読書活動推進計画（43事業）の評価概要	3
（1）★★★事業（7事業）	3
（2）★★事業（7事業）	4
（3）★事業（29事業）	5
※生涯学習審議会意見	6
2. 子ども読書活動推進計画（60事業）の評価概要	6
（1）★★★事業（6事業）	7
（2）★★事業（10事業）	8
（3）★事業（44事業）	8
※生涯学習審議会意見	9
II. 図書館等の現状	10
1. 八王子市図書館	10
2. 読書関連施設やボランティア団体	11
3. 図書館データ	12
1) 蔵書	12
2) 視聴覚・新聞・雑誌・障害者資料	12
3) 図書資料購入経費及び資料数	13
4) 有効登録者状況	13
5) 利用状況	13
6) 図書館企画事業	15
7) 相互利用協定を締結した他市との相互利用状況	16
8) 学校図書館サポート事業	16
9) 図書館市民満足度調査	16
10) 図書館事業費（決算額）	17
11) 図書館職員数	17
4. 読書活動推進のための周知活動	18
※生涯学習審議会意見	18
III. 多摩各市との比較（東京都公立図書館調査より）	19
IV. 図書館配置の考え方	20

○八王子図書館の沿革（資料 2 の 17 参照）

八王子における公立図書館は、明治 44 年の町立図書館の開設に始まり、大正 6 年の市政施行により市立図書館となる。その後、戦争による建て直し等を経て、昭和 30 年に市立図書館が東京都へ移管され、市内には都立図書館のみが設置された状況となる。

その後、市民要望などを踏まえ、昭和 48 年から移動図書館車「青い鳥号」の運行を開始し、昭和 53 年には 3 台の運行により市内 87 か所を巡回するまでになる。

昭和 56 年に、図書館建設検討委員会より中央図書館建設の答申を受け、昭和 60 年 1 月に千人町に中央図書館が開設された。これを受けて、市内にあった都立図書館は廃止された。

平成 3 年に、社会教育施設の建設を推進することが決定し、生涯学習施設等との複合施設として、南大沢図書館（平成 8 年 10 月）、川口図書館（平成 9 年 4 月）、生涯学習センター図書館（平成 11 年 10 月）が順次建設された。当初は市内に 7 か所の図書館を建設する方針も出されたが、平成 15 年には市民センター 17 館構想の建設が横山南市民センターの完成により完了したことを受け、公立図書館 4 館を基本として、市民センターや市民集会所などに設置された地区図書室 17 か所と図書館とのネットワークを構築し、さらに地区図書室の図書館分室化を推進することにより、市民の読書環境を整備してゆく方針となる。その後、平成 18 年 7 月に北野市民センター地区図書室が図書館分室となる。

また、平成 15 年 9 月には青い鳥号は廃止となる。

読書に関する計画については、平成 13 年 2 月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されたことを受け、八王子市として、平成 15 年 3 月に「子ども読書活動推進計画」を、平成 16 年 3 月には、「読書のまち八王子推進構想」及び「生涯読書活動推進計画」を策定し、平成 16 年度から「第 1 次読書のまち八王子推進計画」がスタートし、平成 22 年度からは「第 2 次読書のまち八王子推進計画」が実施された。

これら計画に基づき、通年開館の実施（平成 15 年 7 月）、北野分室の開室（平成 18 年 7 月）、隣接市等との図書館相互利用（平成 20 年 4 月に京王線沿線 7 市連携ほか）、幼児や保護者向けのブックスタート事業（平成 20 年 4 月）、学校図書館サポート事業（平成 22 年 4 月）、学校図書館支援サービス（平成 22 年 12 月）、図書館システム更新（平成 23 年 4 月）などの事業が実施され現在に至っている。

I. 第2次読書のまち八王子推進計画の総合評価（資料1 参照）

第2次計画は、「読書のまち八王子推進構想」に基づき、第1次計画を引き継ぎ、生涯読書活動推進計画と子ども読書活動推進計画の2本の計画に基づき、103の事業が実施された。

各事業について、次のAからDの評価により分析した。

A評価：計画通り事業を実施し、よい結果が得られた。

B評価：計画通り事業を実施できた。

C評価：計画した事業の一部が未達成であった。

D評価：計画した事業が達成できなかった。

総合評価として、103事業中、A評価67事業（65%）、B評価31事業（30%）、C評価2事業、D評価3事業となり、95%（98事業）が達成できたことから、概ね第2次計画は計画通りに推進できた。

各計画の大きな成果を一つあげるとすると、生涯読書活動推進計画においては、平成23年度に図書館システムが更新されたことによる資料検索や、リクエストの環境が大幅に改善されたことによる利便性の向上があげられる。

また、子ども読書活動推進計画においては、第1次計画より掲げていた学校図書館サポート事業が平成22年度に開始され、学校図書館サポーターの各小中学校への派遣が進み、学校内における学校図書館の活用及び授業への読書の活用が進んできたことがあげられる。

（※H27年度より、学校図書館サポーターは学校司書に名称変更。）

計画通りに事業達成できなかった5事業の概要は次のとおりである。

ア）事業が一部未達成であったC評価の2件

①「地区図書室の分室化」

第2次計画期間内には分室化は実現できなかったが、平成27年10月の中央図書館みなみ野分室開室に向けた準備を行った。

②「他市連携内容充実のための見直し」

八王子市民が、他市図書館利用において、他市の市民と同等の図書館利用できるよう、継続して関係市へ改善を働きかけてゆくこととした。

イ）事業達成できなかったD評価の3件

①「近隣でない地域との連携」

近隣8市と連携を行っているが、新たな連携とはなっていない。今後も市民からの要望を聞くなどして、8市以外との連携を検討してゆく。

②「図書館メールマガジンの配信」

図書館ホームページなどで多くの情報が提供できるようになり、メールマガジン情報の有効性や事務量等を検討した結果、実施効果が期待できないとして未実施となった。

③「出版社との協働による地域資料出版史の作成」

検討の結果、地域資料の整理や実施体制など課題が多く未実施となった。

1. 生涯読書活動推進計画（43事業）の評価概要

A評価（26） B評価（12） C評価（2） D評価（3）

43事業中、A評価26事業、B評価が12事業と約9割の事業が計画通りに実施できたが、目標に達しなかった事業（C評価）や実施出来なかった事業（D評価）があった。

計画に定めた基本的な考え方に対する実績評価は次のとおりである。

ア)「市民が自主的に読書に親しむ環境の整備」

地区図書室の図書館分室化を掲げたが、計画期間内に一か所も分室化出来なかったことは残念であるが、第3次計画初年度の平成27年度にみなみ野分室が開室することが決定し、その準備を進めることができたことは一定の評価と考えられ、今後も、身近な場所での読書環境整備の一環として、地区図書室の分室化を進めていくことが求められる。

イ)「市民が自主的に読書活動を促進するための連携や支援」

地域文庫の支援や大学図書館の活用などを掲げ、地域文庫への継続した資料貸出や文庫活動の市民への周知、大学図書館の図書館ホームページへのリンク等により、連携や支援が図られたと考えるが、第3次計画において掲げたとおり、特に図書館マップの作成などにより、地区図書室や近隣市図書館、市内大学図書館などの特色や交通手段等の情報提供を図り、地区図書室や大学図書館、ボランティア団体等との連携や支援により読書活動を促進してゆく必要がある。

ウ)「読書に対する理解や関心を高めるための啓発及び普及活動」

図書館ホームページの全面改正により、より多くの図書館情報を市民に発信できた。年4回発行している図書館広報誌「らいぶらりい」では、図書館のイベント情報をはじめ、連載により八王子の昔話を掲載しており、さらに平成24年度からの3か年で、図書館で活躍するボランティア団体を紹介した。また、図書館でのテーマ展示において、八王子に焦点をあてた「八王子を舞台にした小説」や「八王子を歩く」など、幅広く生涯学習への資料提供を行い、市民が読書に興味を持ち、読書の啓発や普及につながる活動を行った。今後も継続して、多くの市民に図書館の活用を啓発してゆく必要がある。

事業優先度別の評価の概要は次のとおり。

(1) ★★★事業（7事業）

A評価（4） B評価（1） C評価（1） D評価（1）

ア) A評価（4件）

①No.16「電子情報（郷土資料等）の提供」

⇒国会図書館デジタル化資料の閲覧複写サービス開始（H26：中央館・生涯館）

※H27.08 現在の実施自治体 23区内（7区） 26市（6市）

②No.19「来館が困難な方に対するインターネットによる情報提供」

⇒図書館システムの更新に伴うホームページの改善により、ホームページのアクセス件数やリクエスト件数が大幅に増加した。

・ホームページアクセス件数 H22：62万回 → H26：156万回

・リクエスト件数 H21：59万件 → H26：70万件

③No.28「社会福祉施設等への出張図書館」

⇒市内養護老人ホーム等への出張図書館を計画期間中継続して実施し、本の貸出とお話会等を実施した。(H22.03より開始し、H26年度は3施設へ出張)

イ) B評価(1件)

①No.18「ホームページにおける書店との相互リンク」

⇒図書館ホームページへのバナー広告掲載のかたちで、2社との連携を図った。

ウ) C評価(1件)

①No.1「地区図書室の図書館分室化」

⇒計画期間内には分室化が実施出来なかったが、平成27年度に由井市民センターみなみ野分館地区図書室の図書館分室化が決定し、その準備作業を行った。

エ) D評価(1件)

①No.17「図書館メールマガジンの配信等」

⇒図書館メールマガジンの配信について検討したが、図書館ホームページやフェイスブック等で多くの情報を提供できるようになったこと。また、インターネットで情報が氾濫する中で、メールマガジン情報の有効性や事務量等を検討した結果、実施効果が期待できないとして未実施となった。

(2) ★★事業(7事業)

A評価(3) B評価(3) D評価(1)

ア) A評価(3件)

①No.12「市民への大学(図書館)情報の提供」

⇒平成24年度に、図書館ホームページに市民が利用できる大学図書館ページのリンクを新たに張った。また、市内大学図書館13館を訪問し、大学図書館の地域開放への協力を要請した。

②No.21「外国人に対するホームページ等の多言語化」

⇒平成23年度に、図書館ホームページに、英語・中国語・韓国語の利用案内を掲載し、在住外国人へのサービス向上に努めた。

イ) B評価(3件)

①No.4「地域の要望に沿った(地区図書室の)開室日時の拡大」

No.5「(地区図書室の)物流体制の強化による提供機会拡充」

No.7「地区図書室の図書部員のスキルアップ」

⇒地区図書室を運営している住民協議会の体制や委託経費の関係から、開室日時の現状維持を確保することが出来た。また、地区図書室への図書館資料の配送についても、地区図書室との協議の中で、週2回配送を継続実施した。さらに、地区図書室の図書部員のスキルアップを図るため、毎年ふれあい財団との共催により研修会を実施した。

ウ) D評価 (1 件)

①No.25「近隣でない地域との連携推進」

⇒第1次計画期間において、京王線 6 市と相模原市、あきる野市との図書館相互利用協定を結んでおり、これらの市以外の市との連携について、東京都市町村図書館長協議会等を通じて、連携を模索したが新たな連携には至らなかった。

(3) ★事業 (29 事業)

A評価 (19) B評価 (8) C評価 (1) D評価 (1)

ア) A評価 (19 件)

①No.3「(地区図書室の)蔵書の充実とサービス拡充」

⇒地区図書室 17 か所の運営に対して市から継続して助成し、蔵書の充実等に努めた。

・蔵書数 H21: 18 万 5 千冊 → H26: 20 万 4 千冊 (+9.8%)

・利用人数 H21: 6 万人 → H26: 6 万 6 千人 (+10.3%)

・貸出冊数 H21: 11 万 6 千冊 → H26: 11 万 9 千冊 (+3.1%)

②No.14「資料提供等による生涯学習環境推進」

⇒平成 23 年度に、都立図書館が廃棄を予定した多摩地域資料 1 万 7 千冊を、散逸を防ぐために八王子市が引き取り、整備・データ化し市民へ公開した。

また、中央図書館において、八王子市に焦点をあてたテーマ展示「八王子を舞台にした小説」「八王子を歩く」「八王子の芸術」を実施し、データをホームページに掲載した。また、各図書館において、児童書や男女共同参画などのテーマ展示を毎年実施し、幅広く生涯学習への資料提供に努めた。

③No.33「施設・設備の整備・改善」

⇒図書の返却ポストを、平成 23 年度に南口総合事務所内に、平成 24 年度に北野分室に設置し、さらに中央図書館に赤ちゃんフラットを設置するなどにより、利用者サービスの向上に努めた。

イ) B評価 (8 件)

①No.37「寝たきりの方等への本の宅配サービス」

⇒平成 15 年度より実施している宅配サービスについて、広報等で周知を図りつつ、各館でボランティアにより毎月宅配サービスを継続実施した。

(H26: 実利用人数 24 名、利用回数 236 回)

ウ) C評価 (1 件)

①No.24「他市連携内容充実のための見直し」

⇒八王子市では、他市市民は八王子市民と同等の図書館サービスを受けられるが、八王子市民は、他市ではリクエスト数や貸し出し冊数など、他市市民と同等のサービスを受けられない状況となっている。このことについて、京王沿線 7 市連携会議において、毎年改善に向けた働きかけを行った。

エ) D評価 (1 件)

①No.9「出版社との協働による地域資料出版史の作成」

⇒平成 21 年度に、中央図書館において、市内出版社等との連携により、「八王子関係出版史展」を開催し、その後市内出版社との協働による地域資料出版史の作成検討も行ったが、地域資料の整理や図書館側の体制等課題が多く、作成には至らなかった。

※生涯学習審議会意見

計画した 43 事業中 9 割近い 38 事業が実施され、特に図書館システムの更新により、資料検索やリクエストなど操作性が向上し、図書館ホームページも見やすい表示になったことから、第 2 次計画開始時と比較し、図書館ホームページのアクセス件数が 2.5 倍に増加し、リクエスト件数も 2 割の増加となったことは、市民にとっての図書館の利便性が大きく向上したと考える。

しかし、重点実施事業として計画した地区図書室の分室化が、計画期間内に実施出来なかったことは残念であるが、平成 26 年度（第 2 次計画期間最終年度）に中央図書館みなみ野分室の開室に向けた準備が進められ、平成 27 年 10 月（第 3 次計画初年度）に開室することが出来たことは評価できる。

また、障害をもつ方たちへのサービスとして、宅配サービスや老人施設への出張図書館、視覚障害者向けおはなし会などを実施しており、今後も継続して障害をもつ方たちも利用しやすい図書館であるよう努めてほしい。

生涯学習において読書は重要な役割を担っており、今後も図書館の蔵書充実やシステム更新など利便性の向上を進めると共に、近隣市図書館や市内大学図書館の活用と合わせて、公共図書館が配置されていない地域などに地区図書室の分室化を進め、身近な場所で読書ができる環境の整備を進めることが必要と考える。

2. 子ども読書活動推進計画（60 事業）の評価概要

A評価（41） B評価（19）

60 事業中、A評価 41 件、B評価 19 件となり、全ての事業を確実に達成することができた。

計画に定めた基本的な考え方に対する実績評価は次のとおりである。

ア)「読書を楽しむ子どもが育つための家庭・学校・地域の環境整備」

特に、学校での読書環境の向上として、平成 22 年度に学校図書館サポート事業が本格的にスタートし、学校図書館サポーターによる学校図書館重点校に対する学校図書館整備が進んだ。また、平成 24 年度からは学校図書館サポーター（読書推進担当）を週 1 回学校に派遣し、学校図書館の活用や授業における図書資料の活用指導等を実施したことにより、学校図書館の整備と活用が大幅に促進された。また、学校及びPTAからの評価も高く、第 3 次計画において、全ての小中学校への学校図書館サポーター（読書推進担当）が派遣されることが期待されている。

イ)「ユニバーサルデザインに基づく読書環境づくり」

司書教諭や学校図書館サポーターへの研修において、障害に配慮した指導や資料選定を盛り

込んだ講習を実施した。また、図書館においては、特別支援学級児童・生徒の図書館訪問の受け入れや、聴覚障害者向けの手話によるお話会を開催した。今後も継続して着実に実施してゆくことが必要である。

ウ)「家庭・学校・地域が相互に連携・協力した取り組み」

ボランティア活動の支援として、ブックスタートや学校図書館ボランティア等に対して毎年研修を実施した。また、毎年、おはなしやわらべ唄、手遊び等の手法を教える講演会を開催し、ボランティアのレベルアップを図った。また、毎年実施する秋の読書週間に合わせた図書館まつりにおいて、ボランティア団体のワークショップを開催し、ボランティア活動の市民への周知を図った。今後も、継続してボランティア団体の支援や連携を実施してゆくことが重要である。

エ)「読書活動への理解と関心のための啓発活動」

保護者への読書活動の啓発として、お話会、ブックスタート、3歳児健診時、ぴよぴよ絵本の時間などにおいて保護者に対して、読み聞かせの大切さや親子のふれあいのきっかけづくりを指導・支援した。また、生涯学習を推進するために、第3次計画でも掲げたとおり、幼児期からの読書活動をより一層進めていく必要がある。

オ)「読書活動推進のための関係機関・団体の役割」

読書活動を推進するためには、関係機関等が、自主的に各々の役割を果たすことが大切である。このため、小中学校、学校図書館を支援する所管、幼稚園・保育園等の子育て所管等に対して、事業実施時や連絡調整において、所管ごとの自主的な読書活動推進を要請し連携を図った。今後も連携を進めていく必要がある。

事業優先度別の評価の概要は次のとおり。

(1) ★★★事業（6事業）

A評価（4件） B評価（2件）

ア) A評価（4件）

①No.55「学校図書館活動を担うスタッフ配置の推進」

No.65「サポートセンターの機能充実」

⇒平成22年度に司書資格を持つ学校図書館サポーターを2名配置し、学校図書館サポート事業を開始する。さらに、平成24年度より学校図書館の活動支援のため、学校図書館サポーター（読書推進担当）を週一回、学校図書館へ派遣し、毎年増員を図り、平成26年度までに11名を44校の小中学校に週一回派遣している。

学校図書館サポーター派遣実績：平成24年度6名17校、平成25年度8名32校

②No.96「視覚障害者への音声サービス」

⇒平成23年度の図書館システムの更新に合わせ、図書館ホームページに音声読み上げ機能のついた、ZoomSightを設置すると共に、ホームページへの情報掲載において、音声読み上げルールに則した記述方法の徹底を図った。

イ) B評価 (2 件)

①No.64 「学校図書館サポートセンターの設置」

⇒平成 22 年度より教育センターにおいて学校図書館サポート事業を開始し、司書資格を持つサポーターによる学校図書館の整備を行う。さらに、平成 25 年度から学校教育部・図書館部及び学校の代表者による八王子市学校図書館活用協議会を開催し、センターの役割や機能について検討を重ね、平成 27 年度のセンターの正式開設に向けた体制整備を進めた。

②No.82 「読書情報を発信する子ども向けコーナーの作成」

⇒平成 23 年度の図書館システム更新時に、図書館ホームページ内に子ども向けページを新設し、子ども達が使いやすい画面により、蔵書検索ができ、おすすめ本、子ども向けイベント情報等を掲載した。

(2) ★★事業 (10 事業)

A 評価 (9 件) B 評価 (1 件)

ア) A 評価 (9 件)

①No.54 「学校図書館読書指導員 (ボランティア) への登録呼びかけ」

No.56 「学校図書館読書指導員 (ボランティア) の拡充」

⇒学校図書館ボランティアとして、学校図書館読書指導員の登録を呼びかけ、平成 26 年度には有効登録者数が 1,432 名になった。また、学校図書館ボランティアへの研修や学校図書館サポーターによる相談支援を実施した。

②No.58 「司書教諭、学校図書館読書指導員等の研修」

No.59 「指導の重点 (教育課程) への読書活動明記」

⇒司書教諭や学校図書館読書指導員 (ボランティア) の資質向上のための研修を毎年実施した。さらに、読書活動を推進することを教育課程に盛り込み、学校図書館年間指導計画を作成し、学校図書館の活用を位置づけるよう指導した。

イ) B 評価 (1 件)

①No.69 「読書活動取組事例等データベース化」

⇒各校の学校図書館年間指導計画書を業務用システム内に公開し、各々の活動計画や実施内容の共有化に努め、学校図書館活用の充実を図った。また、平成 22 年度から学校図書館だより「としよえもん」を発行・配布するとともに、市のホームページにも掲載し、学校における読書活動の情報を発信してきた。

(3) ★事業 (44 事業)

A 評価 (28 件) B 評価 (16 件)

ア) A 評価 (28 件)

①No.46 「保護者に対する読書の啓発」

⇒各図書館で毎月実施する幼児・児童向けのお話会や、保健福祉センター等でのブックスタート事業や 3 歳児健診時の読み聞かせ、また南大沢図書館における

「ぴよぴよ絵本の時間」などにおいて、幼児・児童に本の楽しさを伝え、保護者に絵本の読み聞かせの大切さを周知した。

②No.85「ボランティアの育成」

No.86「研修等によるボランティアのレベルアップ」

⇒各図書館において、毎月朗読団体によるお話会や、本の修理や手づくり絵本の作成などの活動の場を提供した。また秋の図書館まつりにおいて、図書館ボランティアを紹介するワークショップを毎年開催するなどにより、ボランティア活動を支援し、ボランティア育成に努めた。

イ) B評価 (16 件)

①No.44「保育園・幼稚園等での読み聞かせ」

⇒各年齢に合わせ、個別または設定保育の中で保育士による絵本・紙芝居の読み聞かせを毎日実施した。また、3歳以上児クラスを対象にボランティアによる絵本の読み聞かせを定期的実施した。

②No.101「市民団体等との連携による講演会等の開催」

⇒平成 24 年度より、東京八王子西ロータリークラブとの共催により、読書感想文・感想画コンクール（感想画コンクールはH17 年度より実施）を実施し、中学生の入賞者を台湾高雄市に派遣した。また、毎年夏休みに「手づくり絵本」講座を「八王子手づくり絵本の会」と、また「大人のお話会」を「八王子おはなしの会」と連携して実施した。

※生涯学習審議会意見

計画した 60 事業の全てが実施できたことは大いに評価できる。特に、第 1 次計画から掲げてきた学校図書館サポーターの配置が第 2 次計画で実現し、各小中学校の学校図書館の整備・活用と授業への読書の活用が進んだことは大きな成果と考える。さらに、第 3 次計画においても、より一層の学校における読書活動の推進を図ってほしい。

また、学校図書館サポーターの配置が進むに合わせて、図書館から学校への調べ学習用の図書の貸出しも毎年増えていることから、図書館として学校における読書活動支援を促進し、図書館からの貸出資料と貸出体制の充実を図ることが必要と考える。

幼児期からの成長過程において、読み聞かせなどを通じ、読書に親しむ習慣を身に着けることは、人生を豊かに生きるための大切な要素と言える。このため、図書館の子供向け事業として、ブックスタート事業やおはなし会、夏休みの子ども向け企画など、目立つ事業ではないが、将来を担う子ども達が読書に親しみ、大人になっても読書が続けられるよう、これら事業を継続し実施していくことが大切であり、児童書の充実と合わせて、子供向けのおすすめ本や企画事業の情報を、学校や保育園・幼稚園等、また保護者や子ども達にタイムリーに周知していったほしい。

Ⅱ. 図書館等の現状

1. 八王子市図書館（資料 2 の 16 参照）

ア) 本館

①中央図書館（昭和 60 年 1 月開館）

延べ床面積 5,581 m² 所蔵能力 41 万冊

（26 年度実績）

蔵書数 91 万冊 入館者数 54 万人/年 貸出冊数 94 万冊/年

登録者数 54 千人 リクエスト件数 19 万件

- ・八王子市の図書館事業の取りまとめ館として、中央館以外の館で所蔵しない本を所蔵している。また、郷土資料を重点的に所蔵し、他市等からの協力資料の借入・返却事務、分室の管理や障害者資料管理を担当している。

イ) 分館

①生涯学習センター図書館（平成 11 年 10 月開館）

延べ床面積 2,039 m² 所蔵能力 20 万冊

（26 年度実績）

蔵書数 29 万冊 入館者数 56 万人/年 貸出冊数 69 万冊/年

登録者数 35 千人 リクエスト件数 18 万件

- ・八王子駅前という立地から、社会人や学生に重点を置いた蔵書やサービスを実施している。

②南大沢図書館（平成 8 年 10 月開館）

延べ床面積 1,675 m² 所蔵能力 18 万冊

（26 年度実績）

蔵書数 22 万冊 入館者数 37 万人/年 貸出冊数 67 万冊/年

登録者数 34 千人 リクエスト件数 22 万件

- ・南大沢駅前という立地と、多摩ニュータウン地区でファミリー層の利用が多く、児童コーナーの充実や「ぴよぴよ絵本の時間」などの児童サービスに力を入れている。
- ・リクエスト件数が市内で最も多く、インターネット環境を活用する利用者が多いことが伺える。また、登録者数と貸出冊数は生涯館とほぼ同数となっている。

③川口図書館（平成 9 年 4 月開館）

延べ床面積 919 m² 所蔵能力 10 万冊

（26 年度実績）

蔵書数 15 万冊 入館者数 13 万人/年 貸出冊数 26 万冊/年

登録者数 10 千人 リクエスト件数 5 万件

- ・登録者に占める中高生以下の割合 27%と各館の中で最も高くなっている。（中央館：16%）
- ・地域の小学校などとの地域連携による読書活動を進めている。

ウ) 分室

北野分室（平成 18 年 7 月開館）

延べ床面積 301 m² 所蔵能力 4 万 5 千冊

（26 年度実績）

蔵書数 5 万冊 入館者数 8 万人/年 貸出冊数 15 万冊/年

登録者数 6 千人 リクエスト件数 5 万件

- ・地域の住民協議会に運営を委託しており、地域住民による「地域で暮らす高齢者と親子に優しい」図書館を目指して活動している。

2. 読書関連施設やボランティア団体

この 5 年間で、市内の読書環境の著しい変化はないが、地区図書室の分室化促進と合わせて、地区図書室の充実と大学図書館等の活用周知が求められている。

①地区図書室（17 室） 5 年間で 1 か所増加（16 室⇒17 室）

由井市民センターみなみ野分館地区図書室が平成 22 年 11 月に開室。

②相互利用協定を締結した近隣市 5 年間で増減なし

8 市（相模原市、町田市、調布市、府中市、日野市、多摩市、稲城市、あきる野市）

③市民が利用可能な大学図書館（16 か所）（資料 2 の 13-1 参照）

ア）貸出・閲覧可能（10 大学等）

杏林大学、創価大学、明星大学、帝京大学、帝京短期大学、首都大学東京
東京家政学院大学、法政大学、拓殖大学、東京工業高等専門学校

イ）閲覧可能（6 大学）

工学院大学、東京造形大学、多摩美術大学、東京薬科大学、中央大学
東京工科大学

④八王子子ども文庫連絡協議会加盟団体（6 団体） 5 年間で増減なし

身近な場所で子どもが本と気軽に出会える場所として、昭和 43 年に地域で文庫活動が始まり、昭和 47 年に連絡協議会が発足した。連絡協議会には一時期 36 団体が加盟していたが、公立図書館や地区図書室が増加する中で、文庫活動団体は減少してきている。

西武北野台子ども文庫、さくら文庫、グリーンヒル寺田子ども文庫
あかね文庫、まつたけ文庫、ツバメ文庫

⑤ボランティア団体

i. 八王子子ども文庫連絡協議会（昭和 47 年発足・加盟 6 団体）

平成 26 年度「子ども読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰」受賞

ii. 八王子朗読の会“灯”（昭和 52 年発足・会員数約 120 名）

視覚障害者のための対面朗読や図書資料の音訳、おはなし会など
平成 22 年「社会貢献者表彰」受賞（社会貢献支援財団）

iii. 八王子手づくり絵本の会（昭和 54 年発足・会員数約 20 名）

中央図書館での手づくり絵本展や夏休み小学生向けの手づくり絵本講座の実施
平成 23 年度「子ども読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰」受賞

iv. 八王子六つ星会（昭和 55 年発足・会員数約 70 名）

視覚障害者のための図書資料などの点訳

v. 八王子おはなしの会（昭和 55 年発足・会員数約 50 名）

図書館や小学校、保育園などでの読み聞かせなど

- 平成 24 年度「子ども読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰」受賞
- vi. 八王子図書館ボランティアの会（平成 8 年発足・会員数約 70 名）
図書館における本の修理、配架、読み聞かせなど
平成 24 年「生き生きシニア活動」顕彰受賞（ニッセイ財団）
- vii. 南大沢音訳の会「こだま」（平成 11 年発足・会員数約 50 名）
視覚障害者のための対面朗読や図書資料の音訳支援、おはなし会など
平成 24 年「生き生きシニア活動」顕彰受賞（ニッセイ財団）
- viii. その他
ブックスタートにおける読み聞かせ、宅配ボランティア

3. 図書館データ

1) 蔵書（資料 2 の 1 参照）

資料購入予算が減額される中で、5 年間で約 6 % の蔵書数の増加となった。

蔵書数が所蔵能力を超過しているが、利用者からは新刊本を中心とした蔵書充実が求められている。（冊）

年度	一般図書	参考図書	郷土資料	児童図書	計
2 1	1,021,089	54,556	37,511	413,543	1,526,699
2 6	1,069,387	57,682	61,280	434,109	1,622,458
増減	48,298	3,126	23,769	20,566	95,759
増減率	104.7%	105.7%	163.4%	105.0%	106.3%

①5 年間で蔵書数は、購入と除籍を合わせて 6.3% 約 9 万 6 千冊増加した。

（既に各館で所蔵能力を超えていることから、複数本の廃棄等により増加を抑制している。）

②郷土資料を除いて、5 年間で各項目 5% 増加している。

③郷土資料は、都立図書館から移管を受けた多摩地域資料 1 万 7 千冊が大きな増加要因

④資料購入予算の減少により資料購入点数が大幅に減少している。

2) 視聴覚・新聞・雑誌・障害者資料（資料 2 の 2 参照）

（点）

年度	視聴覚	新聞	雑誌	障害者資料	計
2 1	94,965	149	1,084	5,137	101,335
2 6	91,357	147	912	5,194	97,610
増減	△3,608	△2	△172	57	△3,725
増減率	96.2%	98.7%	84.1%	101.1%	96.3%

①視聴覚資料は、現在 DVD 及び CD を購入しているが、既存資料のビデオテープとカセットテープについては、劣化により使用が難しくなった資料を順次廃棄処分する資料数が多いことから、資料数が減少する結果となっている。

②資料購入予算の減少に伴い、DVD・CD 及び新聞・雑誌についても購入点数が減少している。

3) 図書資料購入経費及び資料数(資料2の3参照)

	購入経費	購入点数
21	114,078 千円	69,320
26	60,990 千円	39,733
増減	△53,088 千円	△29,587
増減率	53.5%	57.3%

①資料購入経費は、5年間で約46%減少し、購入点数も43%減少した。

4) 有効登録者状況(資料2の4参照)

(人)

	21	26	増減率
小学生以下	18,723	10,237	54.7%
中・高校生	24,710	14,644	59.3%
大人	302,137	114,595	37.9%
計	345,570	139,476	40.4%

①平成19年7月から、利用者登録更新制度(5年更新)を導入し、5年間利用されず未更新の登録者を平成25年9月に一括削除を行い、その後も毎年未更新者の削除を実施している。このため、平成25年度から登録者数が大幅に減少している。

(他市においては、利用者登録更新制度を導入していない市がある。)

②登録者の区分割合は、26年度で小学生以下が7%、中高生が11%、大人が82%となっている。

5) 利用状況(資料2の5参照)

ア) 開館日数 平均335日(25年度26市で最大開館日数)(資料2の5-1参照)

通年開館を実施。閉館日は、本館及び分館については、月1日(川口館は月2日)の館内整理日と年1回の蔵書点検期間(8~12日前後)、及び年末年始6日程度となっている。

イ) 入館者数及び貸出資料点数(資料2の5-1参照)

入館者数 H21:186万人 ⇒ H26:167万人(△10%)

貸出資料点数 H21:303万冊 ⇒ H26:271万冊(△11%)

入館者数及び貸出資料点数が減少している。多摩各市の状況を見ても同様な減少傾向にある。

ウ) 夜間（17～19 時）利用人数（資料 2 の 5-2 参照）

(人)

年度	区 分	中央館	生涯館	南大沢館
21	入館者数	616,966	625,261	420,166
	内夜間分	124,084	114,649	58,659
	(夜間割合)	20.1%	18.3%	14.0%
26	入館者数	537,638	560,082	366,303
	内夜間分	101,412	94,483	49,612
	(夜間割合)	18.9%	16.9%	13.5%
増減率	入館者数	△79,328	△65,179	△53,863
	内夜間分	△22,672	△20,166	△9,047
	(夜間割合)	△1.2%	△1.5%	△0.4%

①通年夜間開館を実施している 3 館について、市の中心部にある中央館と生涯館で、夜間利用の割合が 2 割前後となっている。また、南大沢館も含めて各館ともに、21 年度から 26 年度の比較で夜間の利用割合が減少してきている。

エ) リクエストサービス件数（資料 2 の 6 参照） (件)

	21	26	増減率
中央館	176,413	190,942	108.2%
生涯館	160,634	183,944	114.5%
南大沢館	172,690	218,050	126.3%
川口館	39,532	50,670	128.7%
北野分室	42,737	54,028	126.4%
計	592,006	697,634	117.8%

①平成 23 年度のシステム更新に伴い、リクエスト環境が大幅に改善されたことと、インターネットによる予約件数が 10 件から 30 件に増えたことにより、リクエスト件数が増加した。特に、入館者数では中央館や生涯館の約 6 割の入館者数である南大沢館が最もリクエスト件数が多く、約 22 万件のリクエストとなっている。

オ) 障害者サービス（資料 2 の 6 参照）

	21	26	増減率
対面朗読サービス	701 回	331 回	△53%
障害者宅配サービス	254 回	236 回	△7%

①視覚障害者に対する対面朗読サービスは、インターネットの読み上げソフトが普及してきたこともあり、利用が半減している。一方、図書館に来ることが困難な障害者等への宅配サービスの利用は、若干の減少となっているが固定した利用がある。

カ) 地区図書室への配本（団体貸出）状況（資料 2 の 7 参照）

市内 17 か所の地区図書室に団体貸出による配本を行っている。毎年、地区図書室の要望を踏まえて資料購入しており、地区図書室の蔵書充実を支援している。（地区図書室の蔵書スペースの関係から蔵書数は微増となっている。）

H21：16 か所 蔵書総数 184 千冊 H26：17 か所 蔵書総数 196 千冊

6) 図書館企画事業（資料 2 の 8 参照）

①ブックスタート事業

平成 20 年度より事業開始し、市内 3 か所の保健福祉センター等において、3 か月児健診に合わせて月 2 回年間延べ 72 回、ボランティアの協力を得て、保護者への本の読み聞かせ方法等の指導や、絵本やわらべ歌 DVD の配布などを行っている。出生率の減少により、年々受講者数は減少しているが、健診受講対象者の 95% 前後に指導を行えている。

H26：対象者数 3,748 名 参加者数 3,575 名（参加率 95.4%）ボランティア 354 名
（H21：対象者数 4,460 名 参加者数 4,165 名（参加率 93.4%）ボランティア 455 名）

②子どもおはなし会

本館及び分館 3 館において、ボランティア団体の協力により絵本の読み聞かせを毎月実施している。また、ひな祭りや七夕等の時節に合わせて工作会などを一緒に実施し、保護者及び子ども達に読書の面白さ、大切さを周知している。

参加者数 H26：1,303 名（H24：1,767 名）

③ 3 歳児健診時の読み聞かせ

市内 3 か所の保健福祉センター等において、月 2 回年間延べ 72 回、3 歳児健診時に絵本の読み聞かせを実施している。

参加者 H26：3,973 名（H21：3,733 名）

④手づくり絵本

毎年、中央図書館において夏休みに小学生向けの手づくり絵本講座を開設し、世界に一つの自分だけの絵本作りを行っている。また、手づくりの本展を毎年開催している。

応募者・出展数 H26：167 名・216 点（H21：204 名・291 点）

⑤高齢者向け朗読会

毎年春と秋に、中央図書館において高齢者向けの朗読会を実施している。

参加者数 H26：149 名（H21：160 名）

⑥図書・雑誌のリサイクル

毎年、各館において除籍となった図書や雑誌の活用として、市民へ無料配布している。

配布数 H26：21 千冊（H21：18 千冊）

⑦夏休み図書館企画

夏休み開館中に、小学校低学年向けの「図書館探検隊」、小学校高学年向けの「一日図書館員」、中学生向けの「中学生図書館ボランティア」などを実施し、図書館の魅力を子ども達に肌で知ってもらう企画を実施している。

⑧読書感想画コンクール・感想文コンクール

感想画コンクールは平成 17 年度から開始し、感想文コンクールは平成 24 年度から実施し、応募者が毎年増加してきている。また、平成 24 年度から、両コンクールの中学生入賞者を台湾高雄市へ派遣している。

応募者数 感想画 H26：988 名（H21：331 名）

感想文 H26：3,406 名（H24：617 名）

7) 相互利用協定を締結した他市との相互利用状況（資料 2 の 12 参照）

①相互利用市（8 市）

相模原市・町田市・調布市・府中市・日野市・多摩市・稲城市・あきる野市

②相互利用状況

H26 年度実績における、八王子市民の他市図書館利用は、登録者累計 37 千人、貸出冊数 274 千冊、他市の八王子市図書館の利用は、登録者累計 7 千人、貸出冊数 79 千冊となっており、八王子市民の利用は他市民と比べて、登録者累計で 5 倍、貸出冊数で 3 倍となっており、この相互利用により八王子市民にはメリットが非常に多き状況が分かる。

8) 学校図書館サポート事業（資料 2 の 14 参照）

①第 1 次計画において計上した事業が第 2 次計画において、着実な実施となった。

②学校図書館サポーターの配置

平成 22 年度に、教育センターに司書資格を持つ学校図書館サポーター（嘱託員）が配属され、学校図書館活用重点校を定め、学校図書館の設備・蔵書等の改善指導を開始した。

③学校図書館サポートだより「としょえもん」の発行（年 3～4 回）

学校図書館活動支援のために、平成 22 年度より発行を開始し、学校図書館の改善状況や活動内容、教諭やボランティアの研修案内等を広報している。

④学校図書館サポーター（読書推進担当）の配置

平成 24 年度から、司書資格を有する学校図書館サポーター（読書推進担当）の配置（H24：6 名、H25：8 名、H26：11 名）し、週 1 回小中学校への学校図書館の活用指導を開始した。（第 3 次計画内で市内全小中学校への派遣を目指す）

⑤図書館から小中学校への調べ学習等資料の貸出

学校図書館サポーターの配置に合わせて、平成 22 年度に図書館から小中学校への調べ学習及び学級文庫用の図書の貸し出しを開始した。

貸出数：H22：68 校 9 千冊 ⇒ H26：81 校 24 千冊（約 3 倍に増加）

9) 図書館市民満足度調査（資料 2 の 15 参照）

①毎年、12 月に各図書館において、来館者 100 名に調査用紙を配付し集計。

②調査は、重要度と満足度を 4 段階で評価。

③平成 21 年度と 26 年度での調査結果の比較

ア) 重要度 H21：3.20 H26：3.19

各項目の平均値ではほぼ同様の数値となったが、個別項目で見ると、「予約できる冊数」と「予約取り置き期間」で重要度が下がり、「図書の充実度」で上がっている。予約冊数と取り置き期間はほぼ定着してきたが、予算減額による資料購入数が半減していることから、図書の充実に対する重要度が増してきていると考えられる。

イ) 満足度 H21：3.20 H26：3.23

各項目の平均値ではほぼ同様の数値となったが、個別項目で見ると、「利用できる時間」と「ホームページ等での図書の探しやすさ」で満足度が下がり、「職員の対応」で上が

った結果となった。この結果は、生活スタイルが多様化している中で、開館時間の拡大要望が増えてきていること。電子情報環境が変化する中で、より一層ホームページ等でのシステム検索機能の改善が求められていると考える。

10) 図書館事業費（決算額）（資料 2 の 9 参照）（千円）

	2 1	2 6	増減	増減率
嘱託員臨職報酬等	190,804	193,987	3,183	+1.7%
図書資料購入費	104,433	53,775	△60,658	△58.0%
館管理経費	193,111	186,066	△7,045	△3.7%
北野分室経費	7,800	9,414	1,614	20.7%
システム経費	13,470	30,486	17,016	126.3%
その他	17,427	16,652	△775	△4.4%
計	527,045	490,380	△36,665	△7.0%

①図書館事業費全体としては、資料購入費が約 6 割減少したことが大きな減少要因であり、全体として 7%37 百万円減少した。

②嘱託員臨職報酬等は、平成 24 年度に学校図書館支援用に嘱託員 1 名が増員となったことによる増額

③システム経費は、平成 23 年度にシステム更新による増額

（H21 年度のシステム借り上げ経費は、H20 年度でリース期間が終了したため、リース期間内経費より大幅に減額となっている。）

11) 図書館職員数（資料 2 の 10 参照）

館 名	2 1			2 6				増減			
	職員	嘱託	計	職員	再任用	嘱託	計	職員	再任用	嘱託	計
中央館	22	22	44	22	2	23	47	0	2	1	3
生涯館	15	16	31	15		16	31	0		0	0
南大沢館	9	8	17	9		8	17	0		0	0
川口館	6	5	11	6		5	11	0		0	0
計	52	51	103	52	2	52	106	0	2	1	3
内司書資格数	16	51	67	19		52	71	3		1	4

①職員には、部長及び課長職を含む

②嘱託員の増員は、平成 24 年度に学校図書館支援サービスの嘱託員が 1 名新たに配置されたため。

③平成 25 年 8 月に組織改正があり図書館部となる。

④職員の増員は、平成 26 年 4 月に、図書館部長の中央図書館長兼務が外れ、中央図書館長に課長職が新たに配属され、さらに中央図書館の退職職員 1 名の代わりに再任用職員 2 名が配属されたことによる。

⑤嘱託員は司書資格所持を採用条件としているので、全員が司書資格を所持している。また職員は、司書としては採用していない。

4. 読書活動推進のための周知活動

ア) 図書館報「らいぶらりい」

・年 4 回発行、毎回 2000 部を作成し、約 260 か所に配布。図書館ホームページにも掲載。

・掲載記事

図書館利用手続きの知らせ、図書館満足度調査結果、図書館統計報告
イベントのお知らせ及び実施報告、図書館カレンダー、八王子の昔話
ボランティア団体紹介、八王子千人塾の案内など

・配布先

教育委員会施設、小中学校、市内大学図書館、地区図書室
近隣市図書館、東京都立図書館、

イ) 図書館ホームページ

図書館の利用案内（日本語・英語・中国語・韓国語）、蔵書検索

図書館からのお知らせ、図書館活動通信、図書館カレンダー

提携図書館案内（近隣市・大学図書館・地区図書室）

蔵書検索（蔵書一覧、新着案内、貸出の多い資料、予約の多い資料、おすすめの資料
所蔵新聞・雑誌一覧、八王子関連資料）

読書のまち八王子推進計画（第 1 次から 3 次）

ウ) その他

八王子市広報・ホームページ、館内ポスター・チラシ

イベントに応じて、市内小中学校や幼稚園・保育園等にも情報提供を行っている。

エ) 図書館ホームページ閲覧件数（資料 2 の 8 の（12）参照）

	2 2	2 6	増減率
閲覧件数	62 万件	156 万件	252%

①平成 23 年度のシステム改修に伴う図書館ホームページの全面改修により、資料検索や
リクエストの操作環境が改善されたこと等により閲覧が大幅に増加した。

※生涯学習審議会意見

多摩各市の状況と同様に、八王子市の図書館入館者数や貸出冊数が年々減少している状況にある。また、図書館資料購入費もこの 5 年間毎年減少し、市民一人当たりの資料数が多摩地域の中で最下位ランクにあり、新刊本が少ないとの意見もある。一方、図書館の蔵書数が各館の蔵書能力を大幅に超えている現状もあり、蔵書の保管場所の確保も課題としてあがっている。

「読書のまち八王子」を標榜する八王子市として、この 5 年間で多くの事業を展開し、図書館を取り巻く厳しい状況の中で、市民サービスに努めてきたことは評価できる。今後も、図書館の活動状況など、市民への情報提供を積極的に行い、より一層の図書館資料の充実や読書環境の整備を進めてほしい。

また、レファレンスの件数が 5 年間で半減している状況について、要因としては、図書館利用者の減少と共に、レファレンス統計の取り方にも課題があるとの説明だが、レファレンスは図書館において基本となる業務であることから、市民が気軽にレファレンス相談ができる環境整備

を進め、図書館が市民にとって身近でいつでも行ける学習の場となるよう努めてほしい。

昨今、インターネットなどの電子情報メディアの利用に伴う活字離れ、読書離れが懸念されているが、読む対象が紙媒体から電子媒体に変わっただけで、活字を読む人が減少しているとは言い難いのではないだろうか。このことから、紙ベースの資料の充実だけでなく、障害を持つ方たちへのサービス向上としても、電子書籍の導入やデジタルアーカイブの設置などにも取り組んでいく必要があると考える。

Ⅲ. 多摩各市との比較（東京都公立図書館調査より）（資料 3 参照）

- ア）入館者数は、この 5 年間でデータが比較できる 17 市において約 6.6%減少（八王子市：△10%）し、貸出冊数も 26 市平均で 4.2%減少（八王子市：△8.8%）してきている。また、入館者一人当たりの貸出冊数は 17 市平均で約 0.02 冊増加（八王子市：+0.01 冊/人）していることから、入館者は減少しているが、利用者一人当たりの貸出冊数は増加していることが分かる。八王子市も同様の傾向が見られる。
- イ）開館日数では、26 市平均で 298 日/年・館となっており、八王子市が 26 市の中で最も多い開館日数 335 日/年・館となっている。
- ウ）蔵書数では、平成 25 年度末の 26 市平均で約 71 万冊/市であり、八王子市が最も多い 162 万冊となっている。人口一人当たり蔵書数は、26 市平均で 4.48 冊/人で、最大は福生市の 7.27 冊/人で、最少は町田市の 2.55 冊/人、八王子市は最下位から 2 番目の 2.89 冊/人となっている。
- エ）1 館あたりの蔵書数では、平均が 118 千冊/館となっており、八王子市は 324 千冊/館。各市図書館は、川口図書館（15 万冊）より小さな図書館が多い状況が見え、八王子市では多摩各市の中央図書館規模の館が複数あることが分かる。

1) 入館者数（データがある 17 市について比較）

- ①17 市合計 H21：1,223 万人 ⇒ H25：1,142 万人 増減△81 万人（△6.6%）
②八王子市 H21：186 万人 ⇒ H25：168 万人 増減△18 万人（△10%）

2) 貸出冊数（26 市で比較）

- ①26 市合計 H21：3,739 万冊 ⇒ H25：3,581 万冊 増減△158 万冊（△4.2%）
②八王子市 H21：308 万冊 ⇒ H25：281 万冊 増減△27 万冊（△8.8%）
③入館者一人あたりの貸出冊数（17 市比較）

17 市平均 H21：2.27 冊/人⇒H25：2.29 冊/人=+0.02 冊/人

八王子市 H21：1.66 冊/人⇒H25：1.67 冊/人=+0.01/人

3) 図書館数及び開館日数（平成 25 年度 26 市）

- ①図書館数 平均 5.8 館/市 八王子市 5 館 最多 13 館（府中市） 最少 1 館（羽村市）
②開館日数 平均 298 日/市・館 八王子市 335 日/市・館（最多）
最少 253 日/市・館（小平市）

※館数は、各市条例に記載されている館数

4) 蔵書数（平成 25 年度 26 市）

①蔵書数 26 市合計 H21：1,742 万冊 ⇒ H25：1,836 万冊 増減 94 万冊（+5.4%）
最大 162 万冊（八王子市） 最少 30 万冊（狛江市）

②人口一人あたりの蔵書数

平均 4.48 冊/人 八王子市 2.89 冊/人 最大 7.27 冊（福生市） 最少 2.55 冊（町田市）

③1 館あたりの蔵書数

平均 118 千冊 八王子市 324 千冊 最大 378 千冊（羽村市） 最少 49 千冊（青梅市）

5) 運営形態（平成 25 年度末）

条例で設置されている図書館は、26 市で 151 館（H23：148 館）あり、直営のみが 28 館（H23：32 館）、一部業務委託が 112 館（H23：112 館）、PFI・指定管理が 5 市・11 館（H23：3 市・4 館）となっている。3 年間で館数及び指定管理等となった館は微増したが、図書館の運営については、指定管理等は 1 割弱程度であり、直営及び一部業務委託での運営が 9 割程度という状況で推移している。

IV. 図書館配置の考え方（資料 4 参照）

平成 26 年に図書館配置の考え方について、「読書のまち八王子推進連絡会議」「生涯学習審議会」に報告し審議された。

この審議結果を受け、平成 27 年 3 月に作成した「第 3 次読書のまち八王子推進計画」において、既存施設の活用などによる読書環境の充実を目指すこととなった。

（平成 27 年 10 月に、由井市民センターみなみ野分館地区図書室が、中央図書館みなみ野分室として開室。またこれ以外の地区図書室についても図書館分室化を推進する。）

○「図書館配置の考え方について」（H26.07.25 生涯学習審議会資料抜粋）

八王子市の図書館建設は、当初「図書館 7 館構想（中央・生涯・南大沢・川口、石川、元八王子、みなみ野地区）」に基づき、昭和 60 年の中央図書館の建設に始まり、南大沢図書館、川口図書館、生涯学習センター図書館と建設を進めたが、市の財政状況が厳しくなる中で、構想が見直され、現在の 4 館 1 分室の体制となっている。

現状の 4 館 1 分室体制では、市域が広い八王子市において、また多様化する市民要望に応えるには限界があり、「読書のまち八王子推進計画」を実現させるためには、より一層の読書環境の充実が求められている。

このため、昨今の経済情勢や市の財政事業が厳しい中で、新たに図書館を建設するのではなく、既存施設の有効活用（地区図書室の図書館分室化、地区図書室の充実、市内大学図書館の活用、近隣市図書館の活用など）により、図書館サービスの充実化を目指すこととする。